

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容言葉 Content of Childcare (language)		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
幼児心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士・幼稚園教諭二種免許取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
乳幼児の言葉の特徴や発達について理解し、「聞くこと・話すこと」の基礎的な力を育むために保育者はどのように支援したらよいか、言葉がけや環境設定、子どもの生活に関係深い児童文化財についての理解を深めることを目的とする。				
授業の目標				
①乳幼児の発達における言葉の機能を説明できるようにする。 ②乳幼児の発達に応じた適切な言葉がけができるようにする。 ③乳幼児の発達に応じた適切な児童文化財を提供することができるようにする。				
授業の方法				
言語発達の理解では授業者の講義中心に進め、保育現場の課題では実習を振り返っての発表を通し情報を共有化する。児童文化財の理解では様々な児童文化財を調べ、絵本については全員が読み聞かせ指導案を作成し、数人が実際に読み聞かせを行う。				
学習の成果(学習成果)				
①乳幼児の発達に即した、「聞く」「話す」言語環境を構成できる。 ②言葉を育む児童文化財の理解が深まり、レパトリーが増える。 ③絵本の読み聞かせの技術が向上することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業方法、評価の説明)、保育所保育指針と幼稚園教育要領における「言葉」			
第2回目	言葉の発達1(胎児期から始語まで)			
第3回目	言葉の発達2(始語から2語文まで)			
第4回目	言葉の発達3(多語文期)			
第5回目	言葉を育む保育者の関わり1(コミュニケーションの楽しさを育む)			
第6回目	言葉を育む保育者の関わり2(言葉や態度から気持ちを理解する)			

第7回目	障害のある子や日本語を母語としない子どもについて
第8回目	保育現場の課題1（子どもが「聞く」ための工夫）
第9回目	保育現場の課題2（子どもが「話す」ための工夫）
第10回目	保育現場の課題3（子どもが「文字に親しむ」ための工夫）
第11回目	児童文化財の理解1（様々な児童文化財の意義）
第12回目	児童文化財の理解2（発達段階に応じた児童文化財の理解：1～2歳児を念頭に）
第13回目	児童文化財の理解3（発達段階に応じた児童文化財の理解：3～4歳児を念頭に）
第14回目	児童文化財の理解4（発達段階に応じた児童文化財の理解：5～6歳児を念頭に）
第15回目	まとめ（子どもの言葉を育むための環境構成・支援はどのようにあるべきか自分の考えをまとめ、発表する）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	15%	読み聞かせ指導案を書いてもらいます。
調査報告書	10%	保育現場の課題について、保育実習・幼稚園実習を振り返ってまとめます。
小テスト	75%	ワークシートを毎回用意します（5点×13回＝65点）。15回目は10点。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

保育所保育指針、幼稚園教育要領

履修上の留意点・ルール

電子辞書を積極的に活用してください。
